広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	効果的なトピック・センテンスを書くための基本ルール
Author(s)	永井，敦
Citation	広島大学森戸国際高等教育学院紀要 , 6 : 37 - 50
Issue Date	2024-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/55627
URL	https://doi.org/10.15027/55627
Right	
Relation	

効果的なトピック・センテンスを書くための基本ルール

永井敦

Basic Rules for Writing Strong Topic Sentences

Atsushi Nagai

Writers, practitioners, and researchers have described the basic rules of paragraph writing, and thanks to them, we now know that a standard paragraph consists of a topic sentence, supporting sentences, and a concluding sentence. Although the topic sentence is considered by many to be the most important sentence in a paragraph, since the writer is usually expected to develop a paragraph based on what is stated in the topic sentence, there is limited understanding of what makes a strong topic sentence. By analyzing the existing literature, this paper proposes five basic rules for writing strong topic sentences. Using these five rules and real-world examples, the author demonstrates how written paragraphs can be significantly improved.

Keywords: *topic sentence, paragraph writing, academic writing*

キーワード：トピック・センテンス、パラグラフ・ライティング、アカデミック・ライティング

1. はじめに

本論文は、パラグラフ・ライティングの核心であるトピック・センテンス（topic sentence）について考察し、効果的なトピック・センテンスを書くためのルールを探るものである。特に、ライティングについて教える立場にある者を読み手として想定し、その教育実践に資する具体的な知見の整理を行う。よって、過度に抽象的な議論や学術用語の使用は避け、幅広い読者層に現場で「使える」知識の提供を目指す。

パラグラフ・ライティングは、論理的あるいは実用的な文章を書く際に必須のスキルである。パラグラフ・ライティングについて書かれた文献は、倉島（2012）を始め多数存在しており、このスキルの重要性について議論する必要はないだろう。それでもあえて近年の関連する大きな動きを一つ挙げるならば、新学習指導要領に基づいて2022年度から実施されている、高等学校の国語科目における「論理国語」や英語科目の「論理・表現」において、パラグラフ・ライティングの指導が明確に打ち出されたことである。公教育においてもパラグラフ・ライティングの重要性が明確に認識されるに至ったということは指摘する価値がある。

パラグラフ・ライティングを根底で支えるものは、トピック・センテンスである。パラグラフ・ライティングに関しては、実践者の間で合意されている基本的なルール（群）が存在する。何を基本的なルールとするかは文献によって細かな違いはあるが、永井（2023）はパラグラフ・ライティングに関する既存の文献61件を分析し、その基

本ルールを 10 個に整理した（表 1）[1]。10 個のルールの内、「基礎ルール」の 2 つと「トピック・センテンスのルール」の 2 つの合計 4 つのルール、つまり、約半数のルールがトピック・センテンスと関わることから、パラグラフ・ライティングの根幹にはトピック・センテンスがあると言えよう。

だが、トピック・センテンスの重要性に比して、効果的なトピック・センテンスを書くためのルールについては十分な検討が加えられていない。例えば、永井（2023）はトピック・センテンスの説明を提示しているものの、あくまで基本的な特徴についての記述にとどまり、「効果的な」トピック・センテンスについては限定的な考察しかなされていない。よって、本稿では、その課題を解決するべく、トピック・センテンスの「基本ルール」を整理することを目指す。

表 1　パラグラフ・ライティングの基本ルール（永井（2023）を基に筆者作成）

「基礎ルール」	
①	1 つのパラグラフは、1 つのトピックについてのみ述べる。
②	パラグラフは、トピック・センテンスとサポーティング・センテンスで構成する。
「トピック・センテンスのルール」	
③	トピック・センテンスは、パラグラフの先頭に置く。
④	トピック・センテンスは、コントローリング・アイデアで方向付ける。
「サポーティング・センテンスのルール」	
⑤	サポーティング・センテンスは、トピック・センテンスと関連させる。
⑥	サポーティング・センテンスは、具体的に述べる。
⑦	サポーティング･センテンスは､読み手の標準的な順序意識に沿う形で情報を配列する。
「補助ルール」	
⑧	メタ言語は、くどくなりすぎない範囲で積極的に使用する。
⑨	パラグラフは、200～400 字で、4 つから 8 つの文を目安に構成する。
⑩	複数のパラグラフから成る文章は､パラグラフの内部構造と文章全体の構造の同型性を意識して構成する。

ここで、あらかじめ本稿における「基本ルール」についての考え方を述べておきたい。これらは、橋本（2009: 44）が述べるように「より達意の人間は破っても差し支えないが、そうでない人間でも、それに従えば目的が容易に果たせる便利な道具」と

[1] 永井（2023）では「基本ルール」と呼ばれているように、これらはパラグラフ・ライティングにおいて、必ず守らなければならないものではない（ただし、①と②の「基礎ルール」は、それが破られると文章がそもそもパラグラフではなくなってしまうことから原則として遵守すべきである）。本稿も、この意味において、トピック・センテンスの「基本ルール」を探るものである。

いう意味で使用している。また、本論で提示するトピック・センテンスのルールは、記述的ではなく規範的であり、実際の文章で守られていないことも珍しくない。実際、Braddock（1974）が衝撃的に示したように、「トピック・センテンスは冒頭に置く」という基本的なルールの適用でさえ、彼が分析した雑誌 25 誌の文章の内 50%程度でしか観察されなかった。だが、Braddock（1974: 301）が正しく指摘するように、この事実はライティング指導で学習者にトピック・センテンスは文章のどこに置いてもよいと教えることにはならないし、分かりやすい文章作成のためには、パラグラフの冒頭に置くという原則を守る「べき」である。このように、以下で提案するルールはあくまで規範的な視点から提案されている点に留意されたい。

以下、本稿の構成を説明する。まず、永井（2023）で整理されたトピック・センテンスの基本的な特徴について確認する。次に、既存の文献をふまえて、効果的なトピック・センテンスを書くためのルールについて整理する。その後、実際の文章を対象に、それらのルールを用いてトピック・センテンスを改善する実例を提示する。最後に本稿をまとめる。

2.　効果的なトピック・センテンスを書くためのルールとは

2.1　トピック・センテンスとは

トピック・センテンスは、読み手に対して、そのパラグラフのトピック及びトピックについて何が述べられるかについて見通しを与える文である。これは、永井（2023）で提示されている定義を、本稿で提示する議論をふまえて微修正したものである。ただし、定義の厳密さを追い求めることは本稿の主眼ではないため、この作業的定義をもとにして議論を進めることとする。

2.1.1　トピック・センテンスの配置[2]

トピック・センテンスは、原則としてパラグラフの冒頭に配置される。なぜ冒頭なのか。それは、読み手がトピック・センテンスを読むことで、続く展開を予測しながら効率よく読解を行うことが可能になるからである。認知心理学的に言えば、トピック・センテンスを読み、適切な関連知識が活性化されることで「予想や期待をもとにして、外界の情報が処理されるトップダウン処理」（神谷, 2011: 129）が導かれ、効率

[2]　トピック・センテンスをパラグラフのどこに置くかは、効果的なトピック・センテンス自体が備える性質ではなく、パラグラフ・ライティングの基本ルール（永井, 2023）であるため、本稿の基本ルールには含めていない。なお、以下の議論では、説明の分かりやすさを重視して、筆者による作例（図 1）を基にしながらトピック・センテンスの配置について考察を進める。他の文章例については、Web 等で検索をするか、または、学術書になるが、野村（2000）の第 3 章に様々な例が提示されているので参照されたい。

的な情報処理が行われるからである。実用的にも、パラグラフ冒頭にトピック・センテンスが置かれていることを読み手が理解していれば、それらに注目して短時間で大意を把握することや読むべき情報に軽重をつけた効率的な読みを行うことができる。トピック・センテンスの具体例（筆者による作例）を以下に挙げる。なお、トピック・センテンスには下線を付す。

> 選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。代議制民主主義を採用している日本では、選挙で選ばれた議員が国民の代理として政治を行うが、その結果を最終的に引き受ける責任は有権者にある。投票に行かないということは、議員を選ぶことを自ら放棄したということであり、それにも関わらず事あるごとに政治への不満を口にするのは、無責任と言わざるを得ない。また、投票という非日常的な行動は、日頃政治への関心が薄い我々にとって刺激となり、政治と自らの関り方について振り返るよいきっかけとなる。したがって、選挙において投票に行くことは、国民としての責任を果たし、日本をよりよい国にしていくために必須の行動と言えるのである。

図 1　トピック・センテンスの例

トピック・センテンスは、パラグラフの冒頭以外に置かれる場合もある。例えば、パラグフの第一文が以下のように逆接の表現や疑問表現と対になっている場合、パラグラフの第二文がトピック・センテンスになる。なお、以下の説明では、違いについて理解しやすくするため、図 1 と同じ例を用いて、議論に関わらない部分を省略しながら比較する。

> 確かに、我々個々人の一票の投票には、国を変える力を感じにくいかもしれない。しかし、選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。代議制民主主義を採用している日本では…

図 2　逆接表現と対になっているトピック・センテンスの例

> 我々が投票をして議員を選ぶことには、一体どのような意味があるのか。選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。代議制民主主義を採用している日本では…

図 3　疑問表現と対になっているトピック・センテンスの例

また、いわゆる「メタ言語」—「本文の内容とは直接関係のない、文章の展開を理解しやすくするような機能をもつ表現や説明」（田中・阿部, 2014: 31）—がパラグラフの第一文に置かれている場合にも、トピック・センテンスが第二文目以降に現れる。図 4 では、「次に、国民の投票行動について考えてみよう。」がメタ言語による表現である。

次に、国民の投票行動について考えてみよう。選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。代議制民主主義を採用している日本では…

図 4　メタ言語がパラグラフの冒頭に来る場合

ただし、これらの場合にも、第一文を前パラグラフの末尾に入れ込む工夫などを施すことでパラグラフの冒頭にトピック・センテンスを意図的に配置することは技術的には可能である（図 5）。なお、ここでは自然な文章の流れを演出するため、文脈を加えている[3]。

…だが、日々の忙しさで政治について考える暇もなく、政党や政治家が提案する政策についての理解も限られる中で、投票をして議員を選ぶことには、一体どのような意味があるのか。

選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。代議制民主主義を採用している日本では…

図 5　疑問表現を前パラグラフへと移動させた場合の例

また、トピック・センテンスがパラグラフの中程（図 6）や末尾（図 7）に配置されることもある[4]。ただし、論理的な文章においては、やはり第一文がトピック・センテンスになる場合の方が、理解しやすさ及び後に続く展開の見通しのつけやすさの面で効果的である。

代議制民主主義を採用している日本では、選挙で選ばれた議員が国民の代理として政治を行うが、その結果を最終的に引き受ける責任は有権者にある。投票に行かないということは、議員を選ぶことを自ら放棄したということであり、それにも関わらず事あるごとに政治への不満を口にするのは、無責任と言わざるを得ない。選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。また、投票という非日常的な行動は、日頃政治への関心が薄い我々にとって刺激となり、政治と自らの関り方について振り返るよいきっかけとなる。

図 6　トピック・センテンスをパラグラフの中部に配置した例

---

[3] このように、特定の文の配置を変える場合、前後の文章も表現や論理の面で調整する必要がある。なお、このようにトピック・センテンスを意図的にパラグラフ冒頭に置くための工夫を提示している文献は管見の限り見当たらない。いずれの書き方が、読み手の理解を最も促進するかを明らかにするには実証的な研究が必要であろうが、規範性（及び実用性）を重視する本稿では、なるべくトピック・センテンスを冒頭に置くことを推奨したい。

[4] 観察的な事実としては、Arnaudet & Barret（1990: 3）が述べるように、トピック・センテンスが文章内で全く明示されず、その存在が含意または示唆される（implied or suggested）のみのパラグラフも存在する。

代議制民主主義を採用している日本では、選挙で選ばれた議員が国民の代理として政治を行うが、その結果を最終的に引き受ける責任は有権者にある。投票に行かないということは、議員を選ぶことを自ら放棄したということであり、それにも関わらず事あるごとに政治への不満を口にするのは、無責任と言わざるを得ない。また、投票という非日常的な行動は、日頃政治への関心が薄い我々にとって刺激となり、政治と自らの関り方について振り返るよいきっかけとなる。したがって、選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。

図 7　トピック・センテンスをパラグラフの末尾に配置した例

2.1.2　トピックとコントローリング・アイデア

トピック・センテンスは、トピック（topic）とコントローリング・アイデア（controlling idea）の二つの要素から構成され、議論の方向付けを行う機能を持つ。トピックとは、すでに片仮名で日常用語になっているように、パラグラフで扱う話題のことであり、コントローリング・アイデアは、その話題についてパラグラフで何を述べるかを示すものである。コントローリング・アイデアは、トピックを制御（限定）し、議論の「方向付け」を行う機能を持つことから、トピック・センテンス全体の質を左右するとされる（三森, 2021）[5]。

コントローリング・アイデアについて、以下で簡単に説明する[6]。再び図 1 を例とすると、このパラグラフでは、「選挙の投票に行くこと」がトピックで、「我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である」がコントローリング・アイデアである。「選挙の投票に行くことは」に続く述部には多様な可能性があるため（例えば「正式に法律で義務化するべきである。」のように、法制化に論点を当てる場合や、「無意味な行動である。」のように図 1 とは逆の立場を示す場合など）、ここで「我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である」と述べることで議論の方向性を限定している。読み手は、これに続く文章で、なぜ投票を行うことが国民の責任と関わるのか、投票行動が責任ある国民としてあり続けることにどう関わるのかについて論述が行われるであろうと予測できる。

---

[5]　コントローリング・アイデアが方向付けにおいて主要な役割を果たすのは事実だが、トピック・センテンスによる方向付けは、あくまでトピックとコントローリング・アイデアの二つの要素が組み合わさった結果として生じる全体的な特性である。

[6]　このパラグラフのトピック・センテンスは、方向付けはなされているが特定の主張を述べているわけではなく、「メタ言語表現のトピック・センテンス」（野村, 2000: 159）と言えるものである。トピック・センテンスの役割はあくまで「トピック導入と話の（展開の）方向性提示」（橋本, 2009: 51）であり、あらゆるトピック・センテンスが、後続する議論の要約を提示するというわけではない。

2.1.3 トピック・センテンスの種類

トピック・センテンスには、続く展開をどのように方向付けるかによって、いくつかの種類に分類できる。橋本（2009: 51）は、英語のパラグラフの観察をふまえ、以下の四つの類型を記述している。b は a と類似するが、a ほど特定的ではない。d は、人物の生い立ちが（時系列的に）語られることを読み手に期待させる、出発点としての文である[7]。

a. 導入部がパラグラフ全体の簡潔な要旨である場合
（例 1）「いつも他人の立場を考えてくれる彼女は親切だ」
（例 2）「一般に、日本人よりアメリカ人の方がはっきりものを言う」

b. 導入部がパラグラフ全体の結論である場合
（例）「彼女は親切だ」

c. 導入部が分類・因果関係の存在など、パラグラフの構成を示している場合
（例 1）「国家形態は 3 種類に分けられる」
（例 2）「現在の不景気には立派な理由がある」

d. 導入部が叙述内容のスタート地点を示している場合
（例）「チャールズ・ブコウスキーは 1920 年、ドイツのアンデルナハで生まれた」

2.2 効果的なトピック・センテンスのルール

効果的なトピック・センテンスは、読み手の読解過程を促進し、それに続く内容へ興味を持たせる工夫がなされた文である。我々は文章を読んでいる時、先に書かれている内容を予測しながら読んでいる（谷口, 2009）。よって、トピック・センテンスを通じてパラグラフの内容を頭出しすることは、上述したように、読み手の関連知識を活性化させ、背景知識を用いたトップダウン処理を支援することにつながる。また、読み手は、読んでいる対象に興味がある場合、理解が高まり、より方略的に読むようになり、読んだ内容を記憶しやすく、また、読解過程に多くの労力を費やす（Springer, Harris & Dole, 2017）。よって、トピック・センテンスにも読み手の興味を掻き立てる工夫を凝らすことで、読み手の関与を高めることに貢献するべきである。

以上を前提に、効果的なトピック・センテンスを書くための基本ルールは、5 つに

[7] d の例は a～c の例に比べ、方向付けが弱いが、続く文章においては「常識的な期待として、この始まり方なら、生い立ちが叙述されると予期される」（橋本, 2009: 51）。橋本（2009: 68）は、d のような文は物語的叙述に見られ、続く展開の方向性が不確定であるために「スタート地点」の表示が役目であるとしている。

整理できる（表 2）[8]。ルール 1 から 3 はトピック・センテンスに特有であり、ルール 4 と 5 は一般的な文章作成ルールのいくつかが改めて強調されたものと言える。

表 2　効果的なトピック・センテンスを書くための基本ルール

ルール 1	パラグラフの展開が予測できるように方向付けを行う
ルール 2	パラグラフでの展開を正確に反映させる
ルール 3	パラグラフでの展開のために詳細を省いて一般性を持たせる
ルール 4	理解しやすいように明確に書く
ルール 5	読み手の関心を惹くように書く

1 つ目のルールとして、コントローリング・アイデアを意識し、トピック・センテンス全体として方向付けを行うことが挙げられる（橋本, 2009; 三森, 2021）。ここで重要な点は、一口に「方向付け」と言ってもそこには段階があるということである。再び図 1 を例にとると、「選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。」というトピック・センテンスは、例えば「選挙の投票に行くことは重要である。」という漠然とした文よりも方向付けが強く、続く文章でどのような議論がなされるかがより明確である。このように、トピック・センテンスでは読み手の予測を助けるため、十分な方向付けを行うことを目指す必要がある。

2 つ目のルールは、後続する内容をトピック・センテンスに正確に反映させることである（Horkoff, 2021; Skyline College, 2023）。仮に方向付けを行っていたとしても、それが続く内容を十分に捉えきれていない場合（例えば情報の漏れがある場合）、読み手は予測を裏切られ、あるいは予測がうまくできず、その理解を妨げることになる。例えば、図 1 のトピック・センテンスが「選挙の投票に行くことは、国民としての義務である。」とされていた場合、後続する文章と確かに内容的な関連はあると言える。だが、実際の議論の内容は、「我々が責任ある国民としてあり続ける」ことに投票行動がどのように関わるかであり、正確な反映にはなっていない。トピック・センテンスには、続く内容を過不足無く盛り込むことをできる限り目指すべきである。

3 つ目のルールは、トピック・センテンスには、後続の文章での展開のため、詳細を含めずに一般性を保った文を書くことである（Horkoff, 2021; Lapum, St-Amant, Hughes, Tan, Bogdan, Dimaranan, Frantzke & Savicevic, 2019; Regent University, 2024）。議論を支える事実や統計数字などの具体的詳細は、後に続くサポーティング・センテンス（supporting sentences）で詳述すればよいため、トピック・センテンスはあくまで続

[8] Walden University（2024）によれば、トピック・センテンスにおいては、パラグラフの主題について自分の言葉で述べるのがよく、直接引用を避けるべきとされる。このルールがどこまで一般的なものかは定かでないため表 2 には含めていないが、本稿でもトピック・センテンスでは間接引用を行うのみにとどめた。

く内容の全体像を捉える一般性のある形で書く。例えば、図 1 のトピック・センテンスが「代議制民主主義を採用している日本において、国民の代理として政治を行う議員を選出するために選挙の投票に行くことは、我々が国民としての責任を果たすことであり、また、政治への日常的な関心を高めるためにも重要な行動である。」であったとする。この場合、明らかに内容を詰め込みすぎており、通常の読み手にとって情報量が多すぎる。ただし、このルールはトピック・センテンスを漠然と書けばよいと述べているわけではない。実際、もしトピック・センテンスが「投票は重要だ。」のような文であれば、抽象的すぎて読み手も続く内容の予期が十分にできない。よって、一般性と具体性の間で落としどころを見つけることが肝心である（Ellis, 2022）。

4 つ目のルールは、明確なトピック・センテンスを、読み手にとって分かりやすく書くことである（Ellis, 2022; Lapum et al., 2019; Horkoff, 2021; Skyline College, 2023）。これは特段目新しいルールというより、文章作成において基本的なものである。だが、このルールについて複数の文献があえて言及しているという事実が、トピック・センテンスを書く上でこの基本的ルールが持つ重要性を物語っている。より具体的には、想定する読み手に適した語彙や表現、読みやすい文の長さ（一般に 50 字程度）、情報構造に沿った情報の提示（旧情報から新情報へ）、適切な読点の配置、ねじれや誤字脱字のない文など、効果的な文の作成に必要とされる観点からトピック・センテンスを見直し、仕上げることが重要である。

5 つ目のルールは、トピック・センテンスを読み手の関心を惹くように書くことである（Ellis, 2014; Horkoff, 2021; Lapum et al, 2019）。Ellis（2014）は、よいトピック・センテンスには一般的に、読み手が続きを読みたくなる「仕掛け」（英語で hook と呼ばれる）が施されているとし、その例として「衝撃」（驚きの事実や印象的なデータ）、「謎」（疑問を含む表現）、「感情」（トピックとの個人的つながり）を挙げている。また Horkoff（2021）は、読み手を惹きこむため、「興味深い」（interesting）語彙を選択することを推奨している。例えば、図 1 のトピック・センテンス「選挙の投票に行くことは、我々が責任ある国民としてあり続けるために重要な行動である。」では、あえて「我々が」という表現が使用されており、書き手と読み手が同じ目線にいることを示しつつ、この話題が読み手自身にも関係することを訴えかけている（実際、この表現を削除すると、ほぼ同じ文にも関わらず、第三者の目線から書かれた、一般的で客観的な響きが生じてくる）。このように、トピック・センテンスを、読み手の興味を高めるという視点で見直すことが重要である。

3. トピック・センテンスの基本ルールを用いた実践

本章では、前章で述べた効果的なトピック・センテンスを書くためのルールを用い

て、実際の文章のトピック・センテンスを改善する実践を示す。取り上げる文章は、いずれも大学生が書いた文章の一部で、一つ目はグローバル課題について学ぶ授業の最終レポート、二つ目は奨学金の応募書類として提出された留学志望理由書である（本稿掲載にあたり、いずれも文章作成者からは許可を得ている）。なお、ライティングの実践場面では、これらのルールはチェックリスト的に使用するのがよいと思われる。

まず、グローバル課題について導入する入門科目において課されたレポートを検討する。これは、「グローバルな課題の解決にあたって重要な視点は何か」というテーマで書かれたレポートで、その内容を以下に示す。

> 例 1）　これまでマイノリティーとしてなかなか声を上げることができなかった人たちが近年声を上げ始めることができるようになってから本講義に取り上げられるような例えばジェンダーなどが話題になってきた。これに関してマイノリティーの声を決して消してはいけないし社会全体で考えるべきであると思う。しかし何でもかんでもイエスマンになって OK にするのではなくマイノリティーの求めていることは何か、または主張は正しいのかなど一度肯定的批判的の両面で見る視点が重要であると思う。ただこの視点で考えるといった僕だが第一回ジェンダーの講義の考えたことではシスジェンダーの視点からでしか考えられてなかったし、第二回のフェアトレードのレポートでは全く現実味が感じられず調べたことから少し考えただけの考えしか述べることができず、第三回のエシカル消費でも第二回と同レベルの考えしか述べることができていなかった。ここから考えた原因は自分がマイノリティーの方々の意見を実際に耳にすることがなかったからだと思う。実際幸いにも経済学部での基礎演習にて LGBT の方の話をお聞きすることができそこでかなり自分の考えが第三者的な考えでしかなかったことに気がついた。ここから分かるのはこの視点に立つためには、マイノリティーの方々の話をしっかり聞くことが重要であるということが分かった。

以下、問題点を指摘していく。まず、このパラグラフのトピック・センテンスは末尾に置かれているため、これを冒頭に置く必要がある[9]。実際、レポートを評価する立場としては、このレポートで何が主張されるのかが先に提示されている方が読みやすい。また、この文には「ここから」や「この視点」といった（照応）表現が使われており、トピック・センテンスとして自己完結していないため、明確さを欠く（ルール 4）。さらに、「マイノリティーの方々の話をしっかり聞くことが重要であるということが分かった」という主題が漠然とした印象を与えていることから、方向付けも不十分と言わざるを得ない（ルール 1）。また、文として読み手を惹きつけるための目立った工夫もされていない（ルール 5）。なお、ルール 3 については問題ない。

---

[9] 最初の文は、物語的叙述における出発点のような文（2.2.3 節の d）であるが、内容からは、必ずしも時系列に沿った論述を行っているわけでもないため、トピック・センテンスとして認定できない（また、論理性が求められるレポートでは、このようなトピック・センテンスはそもそもふさわしくない）。実際、レポートのテーマへの回答となっているのは末尾の文であるため、これがトピック・センテンスであると判断した。

このレポートの内容をふまえて、筆者なりにトピック・センテンスを書き直すならば、以下を一例として提示する。

> グローバル課題の解決を考えるには、マイノリティーとされる人々の意見を敬意と共感をもって聴き、自分なりに批判的に考えることが大切である。

文の長さは 67 字で長すぎず、読点も複数配置しているため読みにくさはない（ルール 4）。文の一般性を保っており（ルール 3）、方向付けの面でも、続く文章でマイノリティーの人々の意見を敬意と共感をもって聴くとはどういうことか、また、自分で批判的に考えることがなぜ大切かについて議論されることが予測できる（ルール 1）。元のレポートの論理展開にやや難があるものの、学生の「しっかり聞くこと」及び「自分の考えが第三者的な考えでしかなかったこと」という重要な気づきを「敬意と共感をもって聴き」の表現で、また、「肯定的批判的の両面で見る視点が重要である」という認識を「自分なりに批判的に考えること」の表現で捉えている[10]。これらを通じて、このレポートの重要な論点を反映した（ルール 2）。最後に、「敬意と共感」のようなキーワード及び「聴く」という（(「聞く」と比べて）やや頻度の低い語彙を意図的に選択することで、読み手の関心を惹きつける効果を狙った（ルール 5）。実際に、このトピック・センテンスが冒頭に提示されていた場合、レポートの読みやすさがどう変化するか、読者は各自で確かめてほしい。

次に、留学の志望理由書のケースを取り上げる。この文章は、海外留学用奨学金を提供する財団への出願書類の一環として書かれたものである。文章が長いため、その内の一つのパラグラフに焦点を当てることとする（大学名については個人情報保護のため伏せた）。なぜ留学を希望するかについての文章の内、自己アピールとも関わるパラグラフである。

> 例 2）私は昔から、前例がないことに自ら挑戦したいという意欲が強い。必要だと思うもの、作りたいと思うものを作るために、誰が何と言おうと成し遂げる自信がある。今回の留学は実に 3 年越しの挑戦である。高校生の時にフランス留学を志してから、コロナウイルスなどの影響もあり、なかなか実現が困難であった。同じ農学部の学生に留学を志す人はおらず、農学部からフランスに留学した過去の事例もない。入学当初、相談に行ったほとんどの場所で厳しい現実を伝えられた。それでも諦めきれなかった私は、いつかどんな形になったとしても成し遂げる日がくると信じて、学部の勉強とは別にフランス語の勉強を続けた。もちろんフランス留学がゴールではないが、強く思い、行動し続けたら、何らかの形で夢を叶えることができると私は信じている。X 大学での自身の研究が本格的に始まる直前に Y 大学へ留学し、“サステナビリティ”について経験を含めた学びを得ることで、今後の研究・開発に、この知識を最大限に活かせると判断した。

---

[10] この工夫について補足すると、「敬意」があれば、相手の話をしっかりと聴くはずであり、また、「共感」ができれば、第三者としてではなく相手の立場で物事を考えることができると筆者は考えるからである。

以下、このパラグラフを評価していく。まず、トピック・センテンスは冒頭に置かれている。文の内容は一般性が保たれており（ルール 3)、内容も明確である（ルール 4)。続く文章で、前例がないことへの挑戦意欲が高いことが語られることが予測でき、方向付けもなされていると言える（ルール 1)。だが、このトピック・センテンスは、パラグラフの半ばまでの記述を反映しているものの、後半部分はトピック・センテンスと関係が薄く、パラグラフの内容を捉えきれていない（ルール 2)。一読した際、「前例がないことに」という表現は（それが無い場合よりも）印象的で、読み手の関心を惹くと言える（ルール 5)。全体として、このトピック・センテンスは一定の質を備えているものの、ルール 2 の面で改善が必要である。

このパラグラフを筆者なりに改善した例は以下の通りである。

> 私は、持ち前の挑戦意欲とあきらめない姿勢で、「サステナビリティ」の先端的な学識をフランスで修得し、独創的な研究開発を将来実現したい。

文の長さは 71 字だが、時系列的な流れに沿う形で（フランス留学から研究開発へ）読点を置いているため、全体として読みにくさはない（ルール 4)。文の内容は、以降の展開を見据えて一般性を保って書いている（ルール 3)。方向付けについては、フランスでのサステナビリティに関するアカデミックな学びを軸に据えて書き直した。この文を受けて、読み手は、続く文章でフランスとサステナビリティの先端的研究について、また、将来の研究開発のキャリア形成について、そしてそれらに人格的特性（ここでは「挑戦意欲」と「あきらめない姿勢」）がどう影響するかについて語られることを予測できる（ルール 1）[11]。その結果、パラグラフ全体の内容も捉えることができている（ルール 2)。また、「サステナビリティ」という現代を象徴するキーワードに「先端的な学識」というアカデミックな言葉を組み合わせ、フランス留学と将来の研究開発が、読み手にも明確に伝わる印象を創り出すことを試みた（ルール 5）（なお、この強調については、当該学生が農学部に所属しており、研究開発が特に重視される「理系」分野の学生である事実も加味した)。先の例と同様に、読者は各自で、筆者が提案するトピック・センテンスと元のトピック・センテンスを比較してみてほしい。

4. おわりに

本稿は、パラグラフ・ライティングに関して、効果的なトピック・センテンスの書

[11] なお、元の文章の「前例がないことに自ら挑戦したいという意欲が強い」という主張については、それを支持する証拠がそもそも弱く、願望に近い内容になっている。そのため、自己アピールとして効果的な主張となっているかがそもそも疑問である。より印象深いエピソードや実績を提示するか、あるいは性格面の強みを前面に押し出す方向ではなく、学業面や研究意欲の面でアピールするなど、内容の見直しが必要だろう。

き方の「基本ルール」を探ることを目的としていた。トピック・センテンスの基本的な特徴を確認した後、既存の文献を基に、効果的なトピック・センテンスについてのルールを整理した。結果として、トピック・センテンスの特質に関わる 3 つのルールと、文に関わる一般的な 2 つのルールの計 5 つの「基本ルール」が同定された（表 2）。また、5 つのルールを用いたトピック・センテンスの改善方法について、実際の文章を対象に例証した。

上で提示した 5 つのルールは、あくまでも規範的なものであり、書き手として心がけるべきものである。すなわち、実際の文章では、それらが論理性を求める種類のものでも、常にこれらのルールに沿ったトピック・センテンスが書かれているとは限らない。この点については、読者自身が文章を作成する際に、トピック・センテンスに対してどれくらい意識を向けているかを内省することで十分に理解できるだろう。筆者自身も本稿執筆時に、トピック・センテンスを冒頭に置くという基本原則を守りつつ、5 つの基本ルールを意識して文を作成する労力の大きさを痛感した。しかし、それでもこれらのルールを意識してトピック・センテンスを作成していくことで、文章全体の読みやすさが格段に向上したという実感もある。したがって、読み手中心のライティングを実践するならば、できる限り「基本ルール」を適用し、一文でも多く効果的なトピック・センテンスを書くべきだろう。

本稿が検討した文献は限定的であるため、5 つの「基本ルール」は常に批判に開かれており、更新される可能性を持つ。既存の文献の多くは、トピック・センテンスとは何であるかの説明は提供しているものの、「効果的なトピック・センテンス」とはどういうものであるかについては言及を欠いている。今回検討した文献は、結果として全て英語圏の文献であり、また、それらは書籍やウェブサイトであった。もちろん、研究論文ではないからと言って、情報の信頼性や議論の妥当性を欠くということには必ずしもならないが、学術的知見の面で何らかの見落としがあるかもしれない（それはひとえに筆者の力不足によるものである）。したがって、これらのルールには常に改善の余地が残されていることは指摘しておきたい。

しかしながら、本稿で提案した 5 つのルールは、効果的なトピック・センテンスを考案する上でいずれも有用なものである。なぜそう言えるか。一般に、ライティングに関する何らかのルールを提案する場合、その提案者のライティング自体に、当然それらのルールが適用されていることが期待される。例えば、倉島（2012）や永井（2023）では、パラグラフ・ライティングについてまさにそれが実践されているが、この論考を書く際も、全てのパラグラフの冒頭にトピック・センテンスを配置する工夫を行い、本稿で提案した 5 つの基本ルールを用いて見直しと修正を行った。結果、各トピック・センテンスの質が確かに向上したため、筆者はこれらのルールの有効性について実践を通じて確認できた。とはいえ、果たしてこれが説得的な議論になっているかどうか

は、読者諸賢の判断に委ねたい。

参考文献

Ellis, M. (2022, June 2). How to Write Masterful Topic Sentences for Essays. *Grammarly Blog: Your Ultimate Writing Resource*. https://www.grammarly.com/blog

橋本喜代太（2002）「パラグラフの構造:トピックセンテンスについて」『女子大文学．英語学英米文学篇』第 3 巻, 41-72.

Horkoff, T. (2021). *Writing for Success - 1st Canadian H5P Edition*. BCcampus Open Publishing. https://opentextbc.ca/writingforsuccessh5p/

神谷俊次（2011）「スキーマ」，子安増生・二宮克美編『キーワードコレクション 認知心理学』, 126-129. 新曜社

倉島保美（2012）『論理が伝わる世界標準の「書く技術」:パラグラフ・ライティング入門』講談社

Lapum, J., St-Amant, O., Hughesm, M., Tan, A., Bogdan, A., Dimaranan, F., Frantzke, R., & Savicevic, N. (2019). *The Scholarship of Writing in Nursing Education: 1st Canadian Edition*. Toronto Metropolitan University Pressbooks Open Educational Resources Publishing. https://pressbooks.library.torontomu.ca/scholarlywriting/

永井敦（2023）「パラグラフ・ライティングの基本ルール ： 日本語パラグラフ・ライティング教育の体系化に向けて」『神戸大学留学生教育研究』第 7 巻, pp. 1-20.

野村真木夫（2000）『日本語のテクスト―関係・効果・様相』ひつじ書房

Regent University (2024). *Writing Strong Topic Sentences*. *Academic Coaching*. https://cdn.regent.edu/wp-content/uploads/2021/10/Regent-Writing-Lab-Topic-Sentences.pdf

三森ゆりか（2021）『ビジネスパーソンのための「言語技術」超入門』中央公論新書

Skyline College (2023). Topic Sentences. *LibreTexts HUMANITIES.* https://human.libretexts.org/Bookshelves/Composition/Introductory_Composition/Rhetoric_-_What_Why_and_How/10%3A_Paragraphs/10.02%3A_Topic_Sentences

Springer, S.E., Harris, S., & Dole, J.A. (2017). From Surviving to Thriving: Four Research-Based Principles to Build Students' Reading Interest. *The Reading Teacher*, 71(1), 43-50.

谷口すみ子（1996）「読解過程における予測の働き」『調布日本文化』第 6 巻, 63-74.

Walden University (2024). Paragraphs: Topic Sentences. *OASIS: Writing Center*. https://academicguides.waldenu.edu/writingcenter/paragraphs/topicsentences